

3つの変化アドバンテージ

三つの変化「離職期間8年」「東京から地方」「専攻分野から他分野」。これが私のアドバンテージだ。

「離職期間8年」で得たものは「スキルと人間力の充電」だ。大学で化学を専攻しフィルム会社研究部で勤務していたが、長野県上田市に住む夫との結婚を機に会社を退職。その後上田市へ転居し、8年間出産育児の専業主婦を過ごした。家で働く母を見て育った私は、以前より子育て期間は在宅ワークを希望していた。長男が小学校へ入学するまでの間、在

凛としていきる

# 理系女性の挑戦

## 離職期間に人間力を充電

宅ワークで生かせる分野を探求し続けた。自分探しができた貴重な充電期間であった。

「東京から地方」で得たものは「繋がり交わる豊かさ」だ。その頃、「ウインドウズ95」が登場し、地方からグローバルに繋がるツールはこれだ！と情

報分野への方向転換を決意した。2001年分探しができた貴重な充電期間であった。

宅チーム「アール・マム」を設立し、デジタル関係の業務をアウトソーシングする事業をスタートした。

現在メンバー8人の内5人が女性で、3人は第一子出産前から従事し、3人ともに今は第2子を育てながら継続している。当初の「オフィス」指導やウェブ制作から地元の人・コトとの繋がり交わりの中で、さらに3次元CAD、プログラミング、そしてマーケティング分析まで分野が広がるに至った。これは地方のコミュニティだからこそできた魅力的な展開だ。

「専攻分野から他分野」で生かされたものは「論理思考による計画的実現力」だ。

大きな出会いがあった。実験データに携わっていた私にとって、その対象が人や感性であり、課題解決や創造へと反映していくプロセスに大いに魅了された。その後、先生からの直伝指導を継続的に受け、地元が抱える課題「観光地への集客再興」「中心市街地商店街の活性化」などの調査分析業務を担うに至った。13年に携わった事例説明を多く掲載した著書「人の考え方に最も近いデータ解析法」をChargesh、Chanceへ」と「凛として凛やかに」変幻し続けたと思う。

企画協力・日本女性技術者フォーラム(JWEF)  
(火曜日に掲載)

アール・マム代表  
森田 小百合



「人の考え方に最も近いデータ解析法」ラフ集合が意思決定を支援する  
森典彦 森田小百合 共著  
KABUNDO

非線形データ分析の著書

13年前、森典彦先生と「ラフ集合論」との

院大学工学部工業化学科卒業。きもと研究部に勤務。結婚を機に退職、上田市へ転居。01年アール・マム設立。長野大学非常勤講師。JWEF個人会員。

